



## 変化は気づきから

校長 岩田 明正

分散登校が始まり、早 1 ヶ月。手探りで始めたタブレット端末を使っての学習活動も児童、教職員双方が使い方に慣れてきたようで、様々な形での活用が行われております。朝、通信で学級にいる人たちと家庭学習をしている人たちがタブレットを介して画面上であいさつをしているのを見ると、ひと昔前の SF 映画のワンシーンのようで、すごい時代になったなあ。自分が勤めているうちにこんな様子を見ることになるとはなあ…とびっくりしております。これからも様々な場面で学習を補助するツールとしてこのタブレット端末は活用されていきます。保護者の皆様にも、その使用法や使用時の注意、マナー等、ご協力をお願いすることになると思いますが、ご協力をお願いいたします。

さて、このタブレット端末は文部科学省の「GIGA スクール構想」に基づいて 1 人 1 台児童に貸し出しているものです。この構想の理念の一つとして「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質、能力を一層確実に育成できる」ことが明記されています。つまり様々な個性と共生していくことが掲げられているわけです。

この「共生」を考えたときに、私の中に強く印象付けられているのが、ちょっと前の話になりますが、パラリンピック閉会式での橋本聖子委員長の「変化は気づきから始まります。」という一言です。それは本校の学校目標「見つめ 認め とともに生きる」につながる言葉だったからです。

パラリンピックでは「共生」ということばが強調されていました。この共生には、自分と違う様々な人たちがいることへの気づきが必要です。そして違いに気づくにはまず、自分がどういう人間なのかを見つめることが必要です。そもそもいろいろなことに気づく感性がないとはじまりません。私はこの気づく力を養うことが教育の大きな目的の一つだと考えます。現状を変化させようという意思是、まさによく見つめ、違いを認めるところから生じると思うのです。

共生社会の実現という大きな目標のみに限らず、日ごろの自分たちの生活をよりよく変えていくために必要な「気づき」。その力を子どもたちに身につけてもらいたいと願うと同時に、私たちも気づくための感覚を忘れてはいけなと強く感じています。コロナ禍での今までと違う日常、そして新しい学習形態の施行。もしかしたら私たちは「気づき」→「変化」のための大きなチャンスのただ中にもいるのかもしれないね。